

令和5年度 第2回学校運営協議会 記録

1 日時 令和5年10月18日(水) 午前9時30分から11時30分まで

2 場所 沼津視覚特別支援学校 会議室

3 出席者

(1) 外部委員

第五地区西連合会 事務局長
東部社会教育振興協議会
和太鼓奏者・本校卒業生
沼津ライオンズクラブ会長
三島市主任児童委員



(2) 学校職員

校長、教頭、小学部主事、中学部主事、高等部主任

4 日程

校長あいさつ、日程説明
本校の理解推進活動「発信」の経過報告
校内参観
協議「本校の理解推進のための『発信』について」
学校への期待、要望



5 理解推進活動「発信」経過報告内容

- ・ 東部地区のほぼ全ての市町の教育委員会、障害福祉課、ハローワークへ職員で分担して夏季休業中に訪問し、本校の紹介を行った。
- ・ 沼津市内の児童や教職員対象に視覚体験教室を8月に開催した。体験内容は、盲導犬や白杖歩行体験、点字や触察体験で、児童13名が参加した。
- ・ 10月10日に学校花壇地域ボランティア(7名)さんと花壇づくりを行った。
- ・ 11月16日に視覚障害に関わる医療関係者、障害福祉に携わる機関職員、幼小中高の教職員対象に授業参観、視覚障害支援機器紹介、手引き歩行体験、触察体験などを行う予定
- ・ 年間4回、高等部が地域でマッサージ奉仕活動予定。7月にららぽーとで実施、今後商工会議所、第5地区センターで実施予定。

6 協議報告 テマ:「本校の理解推進のための『発信』について
参観より

- ・ マンツーマンや少人数での指導の環境で恵まれている。子供を認め、励ましていくなど教員の資質が大切と感じた。また、少人数の良さもあるが、集団や交流等も大切。幼小中高と、縦割りの関わりを意識的に設定するのもよい。

- ・幼稚部、小学部低学年、自由な雰囲気がよい。少人数で自分からやりたいことができ、課題解決につながる。花壇や校内の掲示物等がとてもよい。どのような学習を行っているのか分かり良かった。

理解推進活動「発信」について

- ・理解推進の活動については、東部地区を全て回って活動されていてとても良い。視覚支援を受けられる子どもたちを増やすのには必要。
- ・マンホールトイレ訓練やマッサージ、ふれあいの集いなど、伝統的な地域の行事として関係をもっていて良い。それが理解推進につながっていく。最近では、近隣小学校3年生に職業講話を地域のいろいろな職業の方が講師となり行った。子どもたちがいろいろな形で地域に触れ、学んでほしい。
- ・年配者へはラジオで発信していくのも良い。見えないこと=マイナスというだけでなく、見えないからよかったことなど、プラス面も発信していけると良い。実際に歩いている際に見られる掲示板を作るのも一つの方法。
- ・ライオンズクラブで小学生野球のチームが100名以上いるが、奉仕作業をしている。校庭の整備、点字ブロックの壊れている所を探すなどするのも良い。
- ・盲導犬・白杖体験は、知るには良いが、理解には繋がらないこともある。体験後、視覚障害者の具体的な話を聞けると、実感につながるのではないか。視覚障害青年部は、中・西部では活動的なので、東部でも人材活用できると良い。
- ・英文を読むスピードは英語の略字の活用で、速くなる。視覚障害者の大人から早めに情報を収集できる機会を持てると良い。
- ・他校では、視覚についてX(ツイッター)にあげている。しーちゃんのキャラを使って、視覚障害あるある等を発信してみてもどうか。
- ・視覚障害者は、晴眼者の生活を知らないことが多く、会話がすれ違ってしまうことがある。知ってもらうことも必要だが、反対に知ることも必要。PCなどの情報機器が早くから扱えるようになるとよい。保護者の意識から変えていくとよい。
- ・直接関われる活動がよい。花壇づくりは、地域の方とたくさん関われよかった。
- ・過去に校内でお昼の放送を行っていたことがある。ラジオのアイデアはよい。実際に職業訓練で放送局に行って放送したことがあった。
- ・X(ツイッター)は、発信を広げていく良い機会。社会との繋がりで、先輩との繋がりがあると良いが、なかなか機会がないのが現状。土日に行っている学校での社会人フロアバレーやゴールボール等に参加するのは良い。以前ゴールボールキャンプ等に参加した時に、同年代の全盲の人との関わりが持てて、お互いに情報交換や気持ちの共有等できるのでとても良い繋がりが築けたことがあった。そのような機会が増えていくと良い。
- ・同世代がチャットなどでつながれると良い。リスクはあるが、普通小中高生もリスクの中で生活している。過保護になりすぎないことも大切ではないか。

7 学校への期待・要望

- ・何か要望があれば学校から出してもらえれば、協力したい。